

SHIRAKOBATO

しらこぼ



1998. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 175

日本野鳥の会 埼玉県支部

バードウォッチングのためのフィールド図鑑(下)

小荷田行男 (浦和市)

先月号は入門者向けでしたが、今回はベテラン向けについて説明します。

4. 野鳥識別

野鳥識別は故高野伸二さんの次の本が日本語で書かれた唯一のまとまった本です。1980年に初版が、1983年に改訂版が出版されましたが現在は絶版です。本書以降、新しい知見に基づいた識別ポイントが考えられていますが、本の形で出版されていません。

高野伸二 1983 野鳥識別ハンドブック
改訂版 野鳥ボックス3 日本野鳥の会 東京

ウミスズメ類、シギ・チドリ類は一般に識別がむずかしく、それらを含めた水鳥について野外における検索ポイントが詳しく記述されているのが次の本です。

中村登流 1984 野鳥検索小図鑑 水辺の鳥 ブルーボックス B-579 講談社 東京

5. 地方鳥類誌

県単位で出現する野鳥について述べられている地方鳥類誌タイプのフィールド図鑑も近年は多くの県で出版されるようになりました。その中でも特色ある3県を対象に述べます。

先月号でも紹介しましたが、埼玉のビギナーのバードウォッチャーを対象とした次の本は、鳥を、基本となる66種に限定し解説しています。「家の近くで会える鳥」、「畑や草原で会える鳥」、「水辺で会える鳥」、「森や林で会える鳥」と環境別に鳥を分け、きれいな写真で紹介しています。あわせて県



キンパラ



ギンバラ

内15の探鳥地のどこでいつ見られるかについて説明しています。埼玉ばかりでなく隣県の人々にもお推めできる親切な内容です。

日本野鳥の会埼玉県支部 1994 気ままにバードウォッチング - 埼玉基本の鳥66種と探鳥地15選 - 幹書房 浦和

地方鳥類誌タイプのフィールド野鳥図鑑の傑作は愛媛県のもです。「海上や海岸」、「干潟」、「池・川・湖沼・アシ原」、「庭・公園・市街地」、「野原・田畑」、「山・高原・森」と環境別の写真インデックスがまず巻頭にあり、各種毎の写真図版には鳥の餌を示す「食性マーク」、生活場所を示す「環境マーク」、人間が鳥に近づける距離を表わす「飛び立ち距離マーク」、県内及び国内の生息の状況を示す「生息危険度マーク」、「全長」、「翼長」、「体重」、足の長さを示す「跗蹠(ふしよ)長」、くちばしの長さを示す「嘴峰(しほう)長」、「尾長」の「測定値」データ表が付けられています。また、県内で観察できる月、標準和名の漢字表記、地方名、学名の読み方とその意味、世界における分布状況、食性、環境について解説されており、さえずり、地鳴きとそのききなし、その特徴を強調したデフォルメ・イラストも入り、いたれり、つくせりです。「声の検索早見表」も付けられており、見ていてとても楽しくなるフィールド図鑑です。

日本野鳥の会愛媛県支部 1992 愛媛の野鳥 観察ハンドブック はばたき 愛媛新聞社 松山

北海道で見られる鳥を写真で紹介する次の本はゴジュウカラ、カケス、エナガなど独特の色をした北海道亜種はもちろん、道内で撮影されたイエスズメ、セボシカンムリガラ、キガシラシトド、ズアオアトリ、ルリガラ、ワキアカツグミ、ワシミミズク、キンメフクロウ、シロオオタカ、ミユビゲラ、ゴマフスズメ、ノドグロツグミなど他では見られない鳥がさりげなく載っている写真図鑑です。

藤巻裕蔵、小堀煌治 1997 最新版 北海道の野鳥 北海道新聞社 札幌

6. 分類別野鳥フィールド図鑑

分類別野鳥フィールド図鑑とは、鳥を分類学的に分けたとき、その一部の種について特に詳しく述べたものを指します。海外、特にアメリカやイギリスでは、これらの出版が盛んですが、日本ではまだごく少数です。

軽井沢の森林の鳥について内外の生態学の最新の成果を取り入れたフィールド図鑑です。不倫も頻繁にあるさまざまな鳥の繁殖行動についてイラストにてわかりやすく解説されており、識別中心のフィールド図鑑の従来の殻を破った画期的な出来上がりです。鳥を季節と環境から見つけることを目指して、「空（春～夏）」、「空（一年中）」、「木のいただき（春～夏）」、「木のいただき（秋～冬）」、「山道（春～夏）」、「山道（秋～冬）」、「林の中（春～夏）」、「林の中（一年中）」、「林の中（秋～冬）」、「草地・林のふち（春～夏）」、「草地・林のふち（一年中）」、「草地・林のふち（秋～冬）」、「沢沿い（春～夏）」、「沢沿い（秋～冬）」、「見る機会の少ない鳥」と絵によるインデックスが巻頭に入っており、森の鳥の入門者にとっても使いやすい工夫がされています。軽井沢が中心なため、本州中部の冷温帯から亜寒帯の高原や山々で使えます。

ピッキオ 1997 鳥のおもしろ私生活ー森の野鳥観察図鑑ー 主婦の友社 東京

ワシ・タカ類の飛翔写真だけで構成したのが次の図鑑です。カラフトワシ、クロハゲワシ、マダラチュウヒ、アカアシチョウゲンボ



アミハラ

ウなどまれに飛来する種を含めた28種のワシ・タカ類が紹介されています。ワシ・タカファンには必携の飛翔図鑑です。

山形則男 1996 ワシタカ類飛翔ハンドブック 文一総合出版 東京

海岸線、特に冬の海岸へ行くと多くのカモメ類を見る事ができます。オオセグロカモメ、セグロカモメ、ウミネコなどの成鳥はそれほど識別にこまりません。ところが亜成鳥となると話は急にむずかしくなります。次の本はオオセグロカモメなどの大型カモメ、ユリカモメ、ヒメクビワカモメなどの中型、小型カモメを、すでに日本で確認されている20種、確認の可能性が高いニシセグロカモメ、カリフォルニアカモメ、アイスランドカモメに加え、今後飛来する可能性の高いチャガシラカモメ、クロワカモメの計25種について、幼鳥から成長と共に変化する夏羽と冬羽を精密なイラストで描いたものです。識別ポイントについても詳細に説明がされています。

氏原巨雄、氏原道昭 1992 カモメ識別ガイド BIRDERスペシャル 文一総合出版 東京

おわりに

（上）、（下）で計15冊のバードウォッチングのためのフィールド図鑑の良書を紹介しました。近年、さまざまなフィールド図鑑が刊行されるようになりましたが、しっかりとした編集方針が貫かれていなく、対象者や使用場面のあいまいなものが数多く見られます。これは我国における自然観察の歴史の浅さ、自然環境に対する認識の甘さに由来するのでしょう。（写真 石井 博）

野鳥記録委員会最新情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

●クロウミツバメ

目科 ミズナギドリ目ウミツバメ科

学名 *Oceanodroma matsudairae*

英名 Matsudaira's Storm Petrel

本年9月2日付け読売新聞埼玉県版によれば、前日からの荒天で内陸部まで流されたりしく、8月28日朝、富士見市勝瀬の浄光寺の住職小川泰俊氏が、自宅庭先にうずくまっているのを発見した。川口市内の動物病院で保護し、県生態系保護協会が調査の上、「クロウミツバメと断定した」とのこと。

直接的な資料は入手できないが、信頼すべき媒体に公表された信頼すべき情報として、当委員会は記録することとした。県内初記録。当委員会作成の県内鳥類リストには302番目の追加になる。

本種は全長約22~25cm。全身黒褐色で初列風切の羽軸が白いので、飛んでいる時白斑として見える。北硫黄島が唯一の繁殖地として知られ、周辺の海上で見られる。

学名と英名が松平頼孝氏にちなんで命名されたことは、本誌前月号6ページ、松井昭吾著「白頭鷺の英名講座」に詳しく述べられている。

●オナガミズナギドリ

目科 ミズナギドリ目ミズナギドリ科

学名 *Puffinus pacificus*

英名 Wedge-tailed Shearwater

本年9月22日付け埼玉新聞によれば、台風

6号の影響で飛ばされて来たらしく、9月18日に川越市内の駐車場でうずくまっているのが発見され、手当てを受けて20日に東京湾で放鳥された。県生態系保護協会がオナガミズナギドリの県内初確認として発表したとのこと。

これもクロウミツバメと同様の判断で記録することとした。過去に県内の記録はなく、当委員会作成リスト303番目の追加。

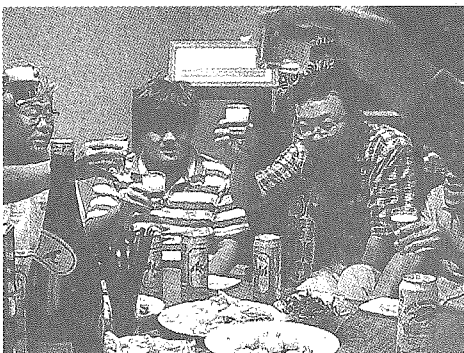
全長約39~46cm。翼開帳約1m。尾がやや長くさび形。太平洋の熱帯部とインド洋に繁殖分布し、国内では小笠原諸島と硫黄列島で繁殖している。九州以北の沿岸に現れるのは少ない。

なお同紙によれば、相次ぐ台風の影響で、9月16日に川口市内でセグロアジサシが、9月17日に桶川市内でシロハラミズナギドリが確認されたとのこと。この両種は県内初ではないが、記録は少ない。

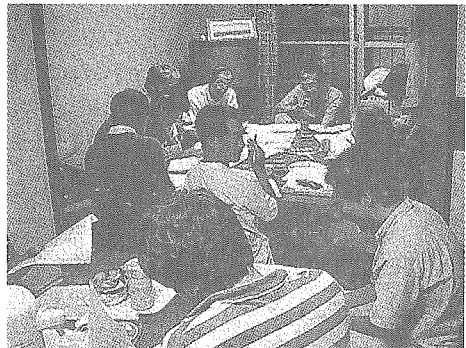
【野鳥記録委員会】

江戸時代など現状とかけ離れた古い記録と区別するために、1978年（昭和53年）3月に埼玉県教育委員会から発行された『埼玉県動物誌』をひとつの区切りとして、同年4月以降の県内の野鳥の記録を整理している委員会です。

委員長：小林みどり、委員：石井智・海老原美夫・杉本秀樹。



10月3日（土）普及部会議



バードソン1998打ち上げ会

たくましい子育てにバンザイ!

陶山和良 (浦和市)

自宅から歩いて15分ばかりの所に、道満グリーンパークがある。休日ともなると、クローバの花で白い絨毯のようになった芝生のあちこちで赤や青の日除けテントを張った家族づれや若者のグループで賑わう絶好の身近な行楽地である。

パークのほぼ中央にある池には小さな島があり、橋もかかり、対岸まで行ける。その池の岸边には、「魚釣り禁止」の立て看板があるのに、釣り人がずらりと糸を垂らし、或いは、腰のあたりまで池の中に入り、あたりかまわず釣り糸を振り回している。

比較的静かな平日にはカイツブリやバン、時にはオオバンやヨシゴイも姿を見せ、周辺の桜並木や野球場の芝生でアリスイやタゲリを沢山見たこともある。私にとっては大変有り難いホームフィールドである。

7月20日海の日、夕方近くぶらりと出かけた。案の定、人・車の多さと釣り人の多さには、驚くばかり。バンやカイツブリは大丈夫だろうか。どこかに避難できたのだろうかと心配。周囲の人達が不審そうに見つめる中、双眼鏡で探すこともなく、黒の縦縞のある雛1羽をつれて悠々と泳ぐカイツブリ。対岸にはバンの親子が羽づくろいをしている姿を発見。ほっとすると共に、たくましいカイツブリやバンの子育てに、思わず心の中でバンザイと叫んでいた。

それにしても不法者の釣り人に怒りを感じ、せめて釣り針や浮き、絡み合ったテグスなど、絶対放置しないでもらいたいものだと思っているところである。

チョウゲンボウのお見送り

中村誠志 (川越市)

拙宅は集合住宅(いわゆるマンション)の最上階にあって、玄関と開放廊下のある北側には、結構広大な水田風景が見渡せます。

居座る秋雨前線のお陰で鬱陶しい日が続いた9月下旬のある朝、出勤のために玄関のドアを開けた私は、何かが開放廊下の向こう側の空中に浮かんでいるのに気が付きました。なんとそれはホバリングをしているチョウゲ

ンボウなのでした。以前、前述の水田で見たことがあるものですから、すぐにそれと分かりました。

ちょっと想像してみてください。普通なら下から仰ぎ見るしかないものを、テレビの映像でしか見る事のないような角度でいきなり目にすることになったのですから、私はそれこそ息を殺して見入ってしまいました。目線と同じ高さに、しかも手を伸ばせば届きそうなくらい近くにその姿があったのです。丸っこくてかわいらしい頭がはっきり見えしました。お互いの目と目も合ったのではないかという気さえします。すぐにひらひらと視界から消えていきましたが、私には長い時間だったように思えました。

チョウゲンボウのお見送りを受けて、普段は重い出勤の足取りも、その日ばかりは軽やかに弾みました。

そこに浮かんでいたのがチョウゲンボウだと分かったのも、そしてそのような楽しい心持ちに一時なれたのも、鳥たちを眺めることをささやかな趣味としていたからだと思います。これからもバードウォッチングを続けていこうと思う次第です。

こんにちば!

しーこばとに、僕ら結がの、と、とてうれしうたぞう!!

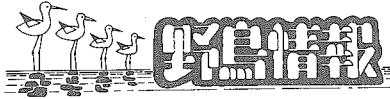
9/24に、家の近くの江川で、ショウドリツバメが50羽前後見られました。そのあとは雨が続き、少ししか見ていません。

あと、カラスが、9/23に飛来した。もう、カモなど冬鳥たちが来ています。(や、た、あ、あ!!!)

僕はこのごろ、部活で忙しいので、鳥見にあまり行けないうえに、1回、どこか、いいところに行きたいです!!では...



五十嵐貴大 (桶川市)



蓮田市黒浜沼 ◇8月15日、上沼北側の黒浜中学校そばの電線上でコムクドリ4羽。電線下は通行量の多い道路であるが、カラスが近づくまでしばらくとまっていた。観察者同地で初認（田中幸男）。

行田市古代蓮の里 ◇8月1日、セッカ数羽が盛んにさえずっていた。見沼代用水の田島橋付近の護岸でシラコバト3羽。水を飲みに来ているようだった。田島橋横の睡蓮池でカワセミ若鳥2羽、ゴイサギ若鳥1羽。柳大橋付近民家林でシラコバト2羽（後藤康夫・喜久子）。

東秩父定峰峠～都幾川村白石峠 ◇8月2日、クロツグミのさえずりが白石峠に響きわたっていた。イカルの姿とさえずりを確認。ウグイス2羽、盛んにさえずっていた。エナガ、メジロ、ヤマガラ、コゲラの混群。センダイムシクイ、ホトトギスのさえずりを確認（後藤康夫・喜久子）。

川本町明戸堰上流 ◇8月14日、カワウ約150羽、ダイサギ5羽、アオサギ2羽、コサギ7羽、クサシギ3羽、イソシギ2羽、オオヨシキリ、セッカ。9月5日、イワツバメ15～16羽、イソシギ2羽。ゴイサギ1羽、草地からジッと川をにらんで魚をねらっていた。ダイサギ5羽、アオサギ3羽、コサギ1羽。コジュケイ1羽、白鳥飛来地駐車場で車の前の草地にいきなり飛んで来た（後藤康夫）。

熊谷市大麻生 ◇8月16日、荒川河原でイソ

シギ1羽、カワセミ2羽。オオヨシキリ1羽、ヨシの間を静かに動き回っていた。トビ1羽、鳴きながら上空を旋回していた（後藤康夫）。

太宮市日進1丁目 ◇8月19日、ツミ1羽。オナガ数羽でモビングしていた。8月25日夕方、アオバズク1羽、鳴き声。9月9日、ツツドリ1羽。桜の虫を食べに来ていた。今期初認（森本國夫）。◇10月3日、エゾビタキ1羽、コサメビタキ4羽、シジュウカラ、メジロ、コゲラの混群が目立つようになった。午前10時37分、サシバ12羽、旋回上昇し、群れて南へ飛行。キセキレイ1羽、林縁で一休みしていた（浅見健一）。

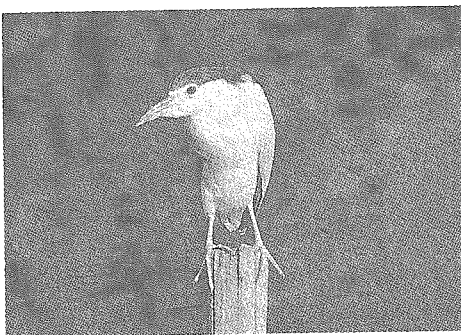
寄居町風布～中間平 ◇8月22日、サンコウチョウ♀3羽。1羽は、眼の周囲がきれいなブルー。2羽は若鳥か、眼の周囲は黒。山道の路端の草むらでコジュケイの幼鳥3羽。「ピーピー」と盛んに鳴いていた。3～4mの距離を置いて親鳥が草むらの中でゴソゴソ。釜伏川沿いの林でメジロ、コゲラ、エナガ、シジュウカラの混群、カワラヒワ12～13羽、釜伏川で水浴び。ヤマガラ4羽（後藤康夫）。

浦和市南部領辻 ◇8月31日午前11時、上空でサシバ1羽（藤原寛治）。

岩槻文化公園 ◇9月1日、ツツドリ赤色型1羽。9月10日、アカゲラ1羽、柳の木で虫をさがしていた。9月19日、サシバ幼鳥♂♀各1羽、近くの木で盛んに鳴き交わしていた。この場所では、初認。9月25日、コムクドリ5羽。9月28日、ツツドリ4羽、クロツグミ幼鳥♀1羽、エゾビタキ1羽。クロツグミ、エゾビタキは、この場所では初認。渡りの途中で、ちょっと一休みした後、すぐに飛び立った（中村榮男）。

狭山湖 ◇9月5日午後3時、カナダガンの亜種4羽。一緒に観察した奥多摩支部会員の方の話では、今年の5月中旬から多摩湖との間を往き来しているとの由（石光章・治美）。

浦和市秋ヶ瀬A区 ◇9月2日、コチドリ16羽、ムナグロ38羽、タシギ4羽、チュウシヤクシギ6羽上空通過、オオタカ1羽。9



ゴイサギ（外園たけの）

月5日、ムナグロ78羽、コシャクシギ1羽、オオジシギ1羽（倉林宗太郎）。

川越市伊佐沼 ◇9月6日、ケリ1羽（内田孝男他4名）。

嵐山町都幾川 ◇9月12日、二瀬橋～八幡橋の間でハシボソガラス15羽。都幾川の中洲でザリガニを採っては器用に食べていた。メジロ、エナガ、コゲラの混群、チュウサギ1羽、カワセミ5羽（後藤康夫）。

坂戸市越辺川 ◇9月12日、高坂橋付近でコシアカツバメ2羽（後藤康夫）。

浦和市辻笹目川 ◇9月13日、カワセミ1羽（倉林宗太郎）。

寄居町鐘撞堂山 ◇9月19日、サシバ4羽、オオタカ2羽、ハイタカ1羽、ノスリ1羽、トビ2羽、ツバメ5羽、イワツバメ10羽、アマツバメ1羽、エゾビタキ4～5羽、カワセミ2羽、カケス4羽、イカルのさえずり（後藤康夫）。

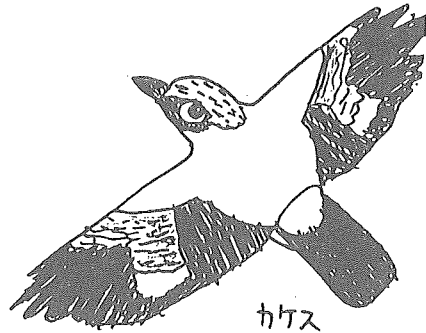
堂平山天文台 ◇9月20日、オオタカ1羽、カケス3羽（後藤康夫）。

秩父市羊山公園 ◇9月20日、エゾビタキ1羽。9月30日、エゾビタキ3羽、コサメビタキ1羽（山岸昭治）。

戸田市道満彩湖 ◇10月2日、シマアジ5羽。コガモ20羽。10月3日、アリスイ1羽、湖畔の木にとまり、ビックリ！ その距離4m（倉林宗太郎）。◇10月15日、アリスイ1羽。ビオトープのほとりの木で、時折長い舌を振り回す（島田康行）。

吹上町 ◇10月3日午前7時30分頃、小谷小学校南の荒川河川敷の榎の木頂の枯れ枝にハイタカ♀1羽。8羽のハシボソガラスにモビングされても相手にせず（寺山聖二）。

大宮市三橋1丁目 ◇10月3日、鴨川でコガモ10羽、カイツブリ夏羽1羽、ゴイサギ若



カケス

（五十嵐貴大）

鳥1羽、バン冬羽1羽、イソシギ2羽。午前8時頃、ヒヨドリ30羽、17羽、2群南へ渡る（浅見健一）。

大宮市三橋5丁目 ◇10月3日、鴨川第一調節池でカワセミ♂1羽、ビオトープ完了後住み着きました。モズ♂1羽、土手の梢で鳴く（浅見健一）。

坂戸市西坂戸調整池 ◇10月7日、ヤマガラ3羽、今シーズン初認。10月11日、コサギ80羽、チュウサギ12羽、ダイサギ8羽、アオサギ1羽、ゴイサギ30羽。毎年9月～3月の間、調整池をねぐらにしている。シラサギ類は、夕方4時30分から5時30分までにねぐらに入り、夜行性のゴイサギは日没後に飛び出ていきます（増尾隆・節子）。

大宮市指扇 ◇10月9日午後5時、「カラスといっしょに帰ろうよ」のチャイムを聞きながら、10階のベランダから何気なく外を見ると、なにかものすごく早く飛ぶ鳥が数羽見えた。大急ぎで双眼鏡を取りだして見ると、なんとそれはアマツバメの群れ。約5分間に40羽。あらゆる方向に旋回しながら通過。アマツバメを我がベランダで観察したのは初めてのことでつい嬉しくて（松井昭吾）。

表紙の写真

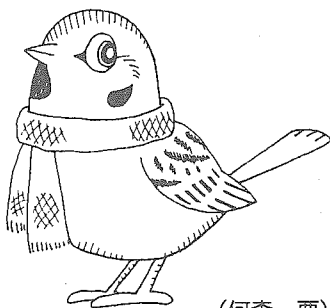
タヒバリ（スズメ目セキレイ科）

好きな鳥は何？ もう地味で地味で、地味の代表選手みたいなタヒバリでも、私のレンズの前でポーズを取ってくれさえしたら、立派に「好きな鳥」の仲間入りです。

例えどんなに珍しい鳥でも、ファインダー

に入ったとたんに飛んじゃうようなやつは、もう許せないのです。なんだあんな鳥は。もうきれいに写してあげないから。ふん、なんてもんです。くやしかったら、ちゃんとポーズとってみろ！ 蟹瀬 武男（浦和市）

行事あんない



(何森 要)

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月8日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03
発に乗車

担当：和田、森本、中島（章）、石井
（博）、倉崎、松本、中里、高橋

見どころ：川面をわたる風も冷たく感じられ
るようになりました。明戸堰の周辺
も、カモさん達のご到着で賑やかにな
りました。遠来のコハクチョウさん達
にもお目にかかれると思います。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月8日（日）

集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅東口前

担当：高草木、佐久間、石井（幸）、志村、
中村（治）、神場、中村（祐）、下
川、村上、荒木

見どころ：タゲリの定期的飛来地として知ら
れている場所です。カモ達も勢揃い、
餌を取る様子や周囲の自然観察も楽し
みながら、流れに沿って土手をゆっく
り歩きましょう。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月8日（日）

集合：午前8時30分 東武伊勢崎線春日部駅
西口東武バス1番バス停前、集合後
8:45発春日部エミナス行きにて高野
台下車。または午前9時15分 アスレ

特別な場合を除いて予約申し込みの必要は
ありません。初めての方も、青い腕章をした
担当者に遠慮なく声をおかけください。私達
もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50
円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ
袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特
に記載のない場合、正午から午後1時頃。小
雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなど
をご利用のうえ、指定の集合場所までおいで
ください。

チック公園前駐車場。

担当：吉安、中村（榮）、橋口、篠原
（東）、入山、松永

見どころ：ゆく秋の静かな公園の中をゆっく
りと歩きます。身近にある公園の雑木
林や刈田の中で、カラ類をはじめジョ
ウビタキなどの冬鳥との出会いを楽し
みましょう。

栃木県・奥日光探鳥会

期日：11月14日（土）

集合：午前9時20分 東武日光駅前、または
午前10時30分 赤沼バス停前。

交通：東武伊勢崎線春日部7:42発（快速）日
光行に乗り、切符は「日光ミニフリー
パス」が便利でお得です。

解散：午後3時半ごろ、湯滝付近にて

担当：中島（康）、福井、櫻庭

見どころ：戦場ヶ原は10月の中旬に初氷が張
りました。初冬の風景を楽しみながら
冬鳥達を探します。ベニマシコ、シ
メ、ツグミ、ウソ、キバシリ、ゴジュ
ウカラなどが期待されます。

注意：雪の降ったこともありましたが、それな
りの身支度と足拵えはしっかりと。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：11月15日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東
口、集合後バスで現地へ。または午前
9時 浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺
(周)、笠原、倉林、若林、岡部、兼元、森

見どころ：11月も中旬になると、朝晩は寒さを感じることがありますが、ジョウビタキやツグミ達がきれいな姿を見せてくれます。空にはユリカモメやウミネコが芝川を遡り、カモ達も北の国からきて賑やかな見沼たんぼです。

長瀨町・宝登山探鳥会

期日：11月15日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道長瀨駅前

交通：秩父鉄道熊谷8:23→寄居8:52→長瀨。
または東武東上線川越7:46→小川町乗り継ぎにて寄居駅乗り換え。

担当：小池、佐久間、青山、林(滋)、井上、堀口、岡野、堀

見どころ：秋もそろそろ終りの時期、冬鳥たちも集まっているようです。野鳥観察はもちろん、落ち葉や木の実、動物の足跡ウォッチングなど登山道はいろいろ楽しめます。登り約2時間のハイキング。足指はしっかりと。昼食と飲み物も忘れずに。

石川県・片野鴨池探鳥会(要予約)

期日：11月21日(土)～23日(月・祝)

定員に達しましたので締切りました。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月22日(日)

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線本川越8:42発、または所沢8:36発に乗車

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井(幸)、小野、中村(祐)、山本、久保田

見どころ：前回の探鳥会からは大幅なメンバーチェンジで、冬鳥たちの出番となりました。今年のカモ類に初顔はいるかな？ 雑木林では何種類の冬鳥にあえるかな？

『しらこぼと』袋つめの会

とき：11月28日(土) 午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：11月29日(日)

集合：午前9時15分 東武鉄道日光線柳生駅前。または午前9時30分 中央エントランス駐車場。

交通：JR宇都宮線大宮8:01→栗橋にて東武日光線乗り換え8:58→柳生9:08着

担当：新堂、中島(康)、内田、入山、中里

見どころ：勢揃いした谷中湖のカモやカイツブリ、アシ原の小鳥、大空に舞うタカなどを見ながら遊水地の初冬を楽しみましょう。

大宮市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月29日(日)

集合：午前8時15分 JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん像」前、集合後バスで現地へ。または午前9時15分 見沼自然公園駐車場(さぎ山公園の西隣)。

担当：工藤、楠見、新堂、兼元、浅見(徹)、吉岡

見どころ：太古、見沼たんぼは東京湾が深く入り込んだ内海だった。そんなことに思いを巡らせながら、たんぼや斜面林に冬鳥たちの姿を求めて歩きます。初冬の見沼の風景は最高ですよ。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：12月5日(土)

集合：午前8時45分 JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前

担当：玉井、中島(康)、中村(榮)、吉田、田中、松永

見どころ：日増しに寒さが加わって、里では鳥見に最高の時季になりました。沼、アシ原、雑木林そしてたんぼに、北国や山から戻った冬鳥たちが勢ぞろいしてあなたを待っています。是非お出かけください。

行事報告

8月30日(日) 第15回リーダー研修会

場所: 北本市文化センター 参加: 47人

集中豪雨にも負けず、今回も充実した1日となる。本部・法月稚津余氏の講演、参加者全員の自己紹介のあと、「よりよい探鳥会をめざして」活発な討論が行われた。その余勢を駆って懇親会も大いに盛り上がる。来年はあなたも参加してみませんか。今回、新規の受講者(17人)は次の方々。新井良夫、上野英士郎、大塚操、小菅靖、清水勝智、高剋宏、田邊八州雄、中村隆、林久美子、日根七郎、前澤明男、松堂忠義、宮下光代、山口静江、吉岡明雄、吉田時規、渡辺泰子

9月5日(土) 千葉県 小櫃川河口

参加: 41人 天気: 曇

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ トビ チョウゲンボウ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ ハマシギ ミユビシギ オバシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシギ オオソリハシギ チュウシャクシギ セグロカモメ ウミネコ アジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セッカ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(31種) 遠方にもかかわらず40名を越す人が集まった。大潮で広々とした干潟の中をシギ・チドリを探し3時間歩いた。県内では見られないミユビシギの群れをいくつも見る事ができた。オバシギ8羽も間近で見られた。足に標識のフラッグを付けたキアシシギ3羽を確認。うち1羽は左



エゾビタキ (外園たけの)

足に緑色のフラッグを付けており、オーストラリアのクイーンズランド州で放鳥されたもの。また干潟の中で山階鳥類研究所の方がカスミ網を張りバンディング調査をしており、その現場も見ることができた。色々と実り多い探鳥会だった。

(中島康夫)

9月6日(日) 千葉県 船橋海浜公園

参加: 40人 天気: 曇

ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ スズガモ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン キアシシギ ウミネコ アジサシ コアジサシ シラコバト キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ セッカ スズメ ムクドリ(24種) バス停付近で最後の受付けをしていると、シラコバトがいるとの声が上がった。なるほど、電線に確かに止まっている。杉本リーダーによると3年ぶりとのことで、埼玉から連れてきたのかしら。潮干狩りの人が多く、シギ・チはほとんどいない。先日の大雨で死んだと思われる貝殻が散乱していた。ようやく遠くの方にハジロカイツブリとキョウジョシギを見つけてほっとした。(菱沼一充)

9月13日(日) 熊谷市 大森生

参加: 54人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ トビ オオタカ コジュケイ キジ バン イソシギ キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(35種) しのぎやすい日が数日続いていたが、この日は猛暑との予報どおり、朝からジリジリと気温が上昇。その暑さにもかかわらず参加者は50名を越えたが、鳥の方は極めて少なかった。何か見つけようと林に入ったらブヨの熱烈飲

迎。いいとこなしで終了かと思われた頃、足元から走り出たメスのキジが色を添えてくれて何とか形がまとまった。(和田康男)

9月15日(火、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 29人

浅見健一、浅見徹、石井智、伊藤幸子、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、倉林宗太郎、小出博、小峯昇、後藤康夫、佐久間博文、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、白井岳彦、新堂克浩、杉原みつ江、高尅宏、高文子、馬場友里恵、福井恒人、藤掛保司、本田修二、本田淑子、前澤明男、松井昭吾、箕輪眞澄、百瀬修

9月20日(日) 浦和市 三室地区

参加: 44人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ サシバ コジュケイ バン キジバト ツツドリ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 暑い日であったが、大雨の後の青空。下見の時は、鳥がいなくても頭が痛い、全員楽しくやっていた、鳥もご機嫌よろしくと出現してくれる。季節の鳥、サシバ、ツツドリ、ノビタキ。アオサギやカワウ、コサギ、ゴイサギ、イワツバメ等が、青空に舞った。季節の割に鳥の数も多く、初心者参加も多く、楽しんでくれた。支部のホームページを見て参加された方もおられて、ホームページ作成の幹事のHさんに感謝。(楠見邦博)

9月20日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 41人 天気: 晴

カイツブリ コサギ アオサギ マガモ カルガモ オオタカ ノスリ サシバ ハヤブサ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 秋晴れの暑い日、ワシタカの渡りの時期。皆さんで探しましょうと『ワシタカ識別図』を配布。オオタカ、ノスリ、サシバ、ハヤブサとまずまずの出現に暑さも忘れて上空を仰いで、足に餌を捕まえている様子も確認できた。

モズの高鳴きがあちこちで。カワセミも数羽じつくりと、♂♀の識別までできて全員大満足。一方、台風4号・5号の影響で川の流れが変わり、通常コースを一部迂回したが、そのあぜ道には真っ赤なヒガンバナが咲いていた。別名曼珠沙華、地方名で500以上あるとか。日高市の巾着田が有名。

(藤掛保司)

9月23日(水、休) 寄居町 鐘撞堂山

参加: 54人 天気: 曇

コサギ オオタカ ハイタカ サシバ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) ぱっとしない天気が続いたが、タカの渡りへの関心は強く、かなりの人数が集合。リーダーとしてはやや気が重い。大正池でカワセミをゲットしたあたりから、明るい兆しが見えてきた。疲れた足取りで山頂を目指す。サシバのタカ柱に全員が感動。さらにサシバの若鳥らしき1羽が隣の頂上で休憩してくれ、これまた感激! タカに救われた1日だった。

(小池一男)

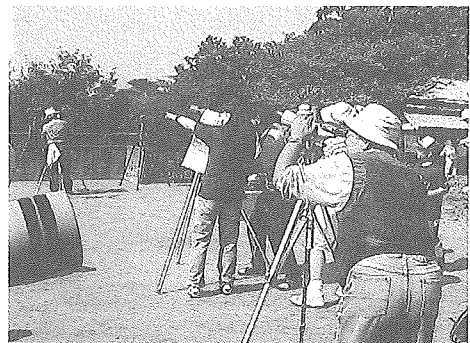
9月26日(土) 『しらこぼと』袋つめの会

ボランティア: 21人

赤坂忠一、荒木恒夫、江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、大友慎也、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、佐久間博文、佐藤千香子、佐藤正之、篠原東彦、島田恵司、島田沙織里、清水勝智、志村佐治、藤野富代、増尾隆、松村慎夫、山野豊

9月27日(日) 狭山市 入間川

雨のため中止。



タカの渡り調査・天覧山

連 絡 帳

●ご存じですか「バードメイト」

バードメイトは、1口1,000円で気軽に参加できる自然保護活動です。日本野鳥の会の里山を守る活動を支えます。昨年は「第1回甦れ!里山シンポジウム」を開催することができました。

ご寄付をいただいた方には、里山に住むアオバズクをデザインしたピンバッジをお送りします。帽子やバッグにつけて、楽しく自然保護をアピールしてください。会員ではない方もバードメイトはOKです。

直接本部に電話・FAX・はがきなどで申し込めば、希望口数分のバッジと振替用紙が送られてきますので、後日郵便局からご送金をお願いします。

TEL: 03-5358-3510 (月~金、10:00~17:00)

FAX: 03-5358-3608

はがき: 151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階 (財)日本野鳥の会会員センター バードメイト係

●バードソン1998打ち上げ会

9月末日までの募金受付も終了したのを機会に、10月3日(土)の普及部会議の後、関係者が事務局に集まって賑やかに打ち上げ会が開かれました。(写真4ページ)

来年の開催は未定ですが、実施の場合はメインとなる女性リーダーが、早くも決まりました。

●国際湿地シンポジウム'98藤前

少し遠いけれども、湿地保護活動の一端としてご紹介します。

日時: 12月5日(土) 13:00~16:30

会場: 名古屋市名城大学11号館504特別教室

内容: 基調講演(日本湿地ネットワーク)、

海外ゲストの発表(コスタリカ、アメリカ合衆国、韓国)、国内湿地の現状報告

参加費: 無料 資料代: 実費

交流親睦会、藤前干潟ナイトウォッチングバスツアーも予定されています。

合わせて、哲学者として「日本文化と自然

のかかわり」を思索し、社会的発言を続ける梅原猛氏による記念講演も開催します。こちらは、

日時: 12月6日(日) 13:00~16:00

会場: 名古屋市吹上ホール7階メインホール

講演テーマ: 干潟と日本文化

パネル討論: 梅原猛、山下弘文、海外ゲスト

参加費: 前売1,000円、当日1,300円

シンポジウム、記念講演会共に、

主催: 日本湿地ネットワーク

主管: 藤前干潟を守る会

問い合わせ先:

または1

●11月の事務局 土曜と日曜の予定

8日(日) 役員会議。

14日(土) 編集会議、研究部会議。

21日(土) 校正作業。

28日(土) 袋づめの会。

●会員数は

10月1日現在3,068人です。

活 動 報 告

8月28日(金) 児玉町で開催された野生のいきものとふれあう学校連絡会議に出席(小池一男)。

8月31日(月) 浦和市で開催された荒川南部鳥獣保護区の設定に関する公聴会に出席(倉林宗太郎)。

9月19日(土) 10月号校正(海老原美夫、喜多峻次、喜多彌生、藤掛保司)。

9月20日(日) 役員会議(司会: 中村榮男、里山シンポジウムや関東ブロック協議会などへの参加者・その他)。

編 集 後 記

野鳥情報が少ない事を幸いに、9月の編集会議をパス。家族で東京ディズニーランドに出かけました。入場するのに50分、ポップコーンを買うのに20分……。あきれるほどの人の量(「数」ではなくて「量」!)の中で、スズメがたくましく生活していました。(藤原)

『しらこぼと』1998年11月号(第175号)

定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130

インターネットホームページ <http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先

〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社

(本誌掲載記事は上記ホームページに転載されることがあります。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします)

再生紙使用